

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/07/01

主要国株価と米QE3規模縮小を巡る思惑を睨みながら

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	RBAの次の一手は？	2-3
		予想レンジ: 86.30 ~ 94.50 円	
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZの声明を注視	4-5
		予想レンジ: 74.00 ~ 82.40 円	
<u>ランド/円</u>	➡	引き続き買い材料は少ない	6-7
		予想レンジ: 9.40 ~ 10.60 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



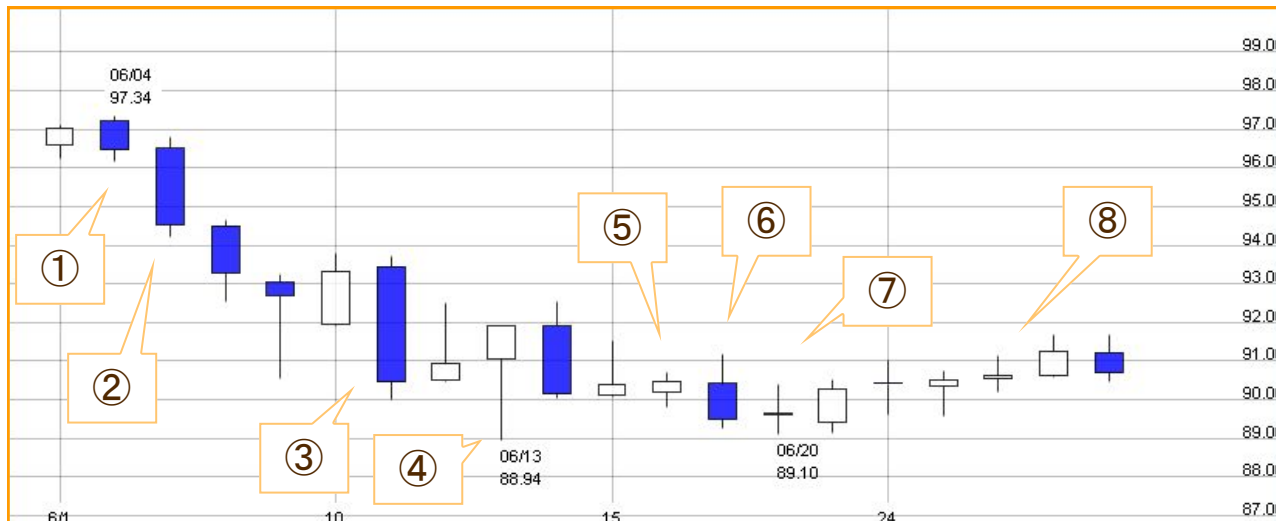
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# AUD / JPY

## 豪ドル/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	96.58円	97.34円	88.94円	90.70円



- ① 4日、豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置き(2.75%)を決定。声明で「インフレ率が一段の緩和余地を与える可能性」とした事を受けて豪ドル/円は急落するも、「政策スタンスは当面適切なまま」とも記されていた事を受けて反発するなど、乱高下となった。
- ② 5日、米5月ADP全国雇用者数が13.5万人増と予想を下回り、ドル/円がストップロス巻き込んで断続的に下落するの連れて豪ドル/円は大きく下落。安倍首相の成長戦略第3弾の演説内容に目新しさがなく、失望感から日経平均株価が下げ幅を拡大した事や、豪第1四半期国内総生産(GDP)は前期比+0.6%、前年比+2.5%といずれも予想(+0.7%、+2.7%)を下回り、金利先物市場にて次回豪準備銀行(RBA)理事会での利下げ観測が高まった事も、重石となった。
- ③ 11日、一部で日銀による追加金融緩和が期待されていたが、金融政策の現状維持が発表された事や、その後黒田総裁が会見で(追加金融緩和は)すぐには必要ないと示唆した事を受け、円買い戻しが強まった。NYダウ平均株価の下げ幅拡大も重なり、豪ドル/円は89.99円まで大きく値を下げた。
- ④ 13日、上海株が3%超、日経平均株価は800円超、それぞれ下落した事を嫌気して、豪ドル/円は88.94円の安値を記録。しかしその後、米FRB(連邦準備制度理事会)ウォッチャーの「翌週の連邦公開市場委員会(FOMC)でバーナンキFRB議長は、資産購入プログラムの調整は終了を意味するものでなく、短期金利を引き上げる事を意味するものではない、との見解を示すだろう」との見方が伝わり、米株が上昇した事を受け、豪ドルは一段と上昇した。なお豪5月失業率は5.5%、新規雇用者数は0.11万人増と予想(5.6%、1.00万人減)より強い結果となるも、アジア株安が進む中では反応は限られた。
- ⑤ 18日、RBA議事録にて「豪ドルは『著しく』下落したが、輸出価格の下落を踏まえれば依然高水準」「豪ドルが交易条件に連れて一段と下落する可能性」等の見方が示され、豪ドル/円は89.80円まで下げた。
- ⑥ 19日、バーナンキ議長がQE3(量的緩和第3弾)の段階的な縮小について言及すると株価が下落し、為替市場ではドルを買って資源国通貨を売る流れが加速。これを受け、豪ドル/円は下落した。
- ⑦ 20日、中国6月HSBC製造業PMI・速報値が48.3と予想(49.1)を下回り、豪ドル/円は一時89.10円まで下落。上海株下落も豪ドルの重石となった。
- ⑧ 26日、豪与党労働党の党首選にて、ラッド前首相が勝利し、ギラード首相が敗北した事が報じられるも、豪ドル/円相場の反応は限定的であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

6月の豪ドル/円相場は88.94円～97.34円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.6%の下落(豪ドル安・円高)となった。

米国のQE3早期縮小観測からくるドル高・株安の流れを受け、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円は大きく下落。ただ、その後は主要国の株価が持ち直した事を背景に底堅く推移した。

7月の豪ドル/円相場は先月に続き、QE3規模縮小を巡る思惑が手掛かり材料となろう。市場では7月FOMCでのQE3縮小開始の可能性は低いと見られているが、9月FOMCでの縮小をすることの示唆もありうる。7月も重要である。5日の米6月雇用統計などが予想より強い結果となり、縮小観測が一段と強まる場面では、ドル買いが強まる可能性がある。その場合、豪ドル/米ドル相場で豪ドル売り・米ドル買いが強まって豪ドル/円相場を下押す材料となり得る。

豪州では、2日に金融政策発表が予定されている。市場では金利据え置き(2.75%)が広く予想されており、市場の関心は同時に発表される声明文に集まりそうだ。豪州の最大の輸出先である中国が景気鈍化懸念やシャドーバンキング問題で揺れているほか、予想を下回った豪第1四半期GDPを背景にRBAの追加利下げ観測がくすぶっている事から、追加利下げについての言及があれば、豪ドル売りの材料となろう。RBAの次の一手を読み解く上で、6月雇用統計や第2四半期消費者物価にも注目したい。(川畑)

(予想レンジ:86.30～94.50円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

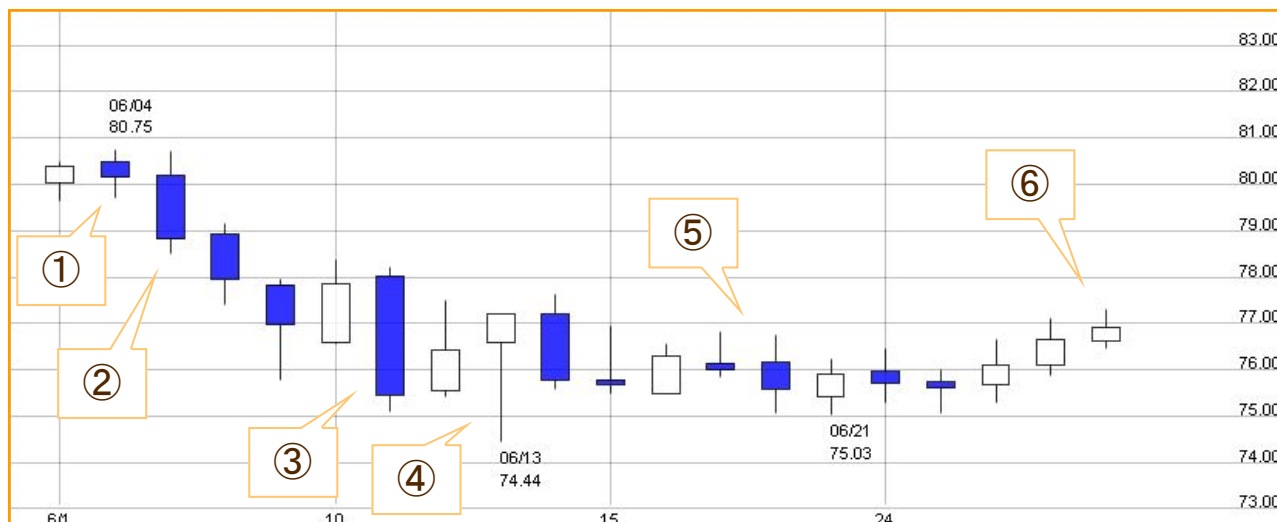
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/1(月)	日銀短観	7/11(木)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)
	6月中国製造業PMI		6月豪雇用統計
	6月米ISM製造業景況指数	7/12(金)	7月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
7/2(火)	RBAキャシュターゲット	7/15(月)	第2四半期中国GDP
7/3(水)	5月豪小売売上高		6月中国鉱工業生産
	5月豪貿易収支		6月米小売売上高
	6月米ADP全国雇用者数	7/16(火)	RBA議事録
	6月米ISM非製造業景況指数	7/21(日)	本邦参議院選挙
7/4(木)	5月豪住宅建設許可件数	7/17(水)	バーナンキFRB議長、議会証言(～18日)
7/5(金)	6月米雇用統計	7/24(水)	6月日通関ベース貿易収支
7/9(火)	6月中国消費者物価指数		第2四半期豪消費者物価
7/10(水)	6月中国貿易収支		7月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	FOMC議事録(6月18・19日分)	7/31(水)	米FOMC政策金利発表

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD / JPY

## NZドル/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	80.03円	80.75円	74.44円	76.90円



- ① 4日、NZの乳業大手フォンテラが「全粉乳の入札価格が前回から14.5%下落した」と発表した事を受け、NZドル/円は一時79.70円まで値を下げた。
- ② 5日、米5月ADP全国雇用者数が13.5万人増と予想を下回った事を受け、ドル/円がストップ高を巻き込んで断続的に下落するのに関連してNZドル/円は大きく下落。安倍首相の成長戦略第3弾の演説に目新しさがなかったため、失望感から日経平均株価が下げ幅を拡大した事も、重石となった。
- ③ 11日、一部で日銀による追加金融緩和が期待されていたが、金融政策の現状維持が発表された事や、その後黒田総裁が会見で(追加金融緩和は)すぐには必要ないと示唆した事を受け、円買い戻しが強まった。NYダウ平均株価の下げ幅拡大も重なり、NZドル/円は75.11円まで大幅に下落した。
- ④ 13日、NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の据え置き(2.50%)を決定。声明で「景気が上向いているものの、インフレリスクは引き続き抑制されており、年内は政策金利を据え置く見通し」との見解や、NZドル高けん制する内容が示された事や、その後ウィーラーRBNZ総裁が議会証言で「NZドルが一段高となった場合、再度介入の用意がある」と発言した事を受け、NZドル売りが加速。上海株が3%超、日経平均株価は800円超、それぞれ下落した事を嫌気して、今年1月以来となる74.44円の安値を記録した。しかし、米FRB(連邦準備制度理事会)ウォッチャーの「翌週の連邦公開市場委員会(FOMC)でバーナンキFRB議長は、資産購入プログラムの調整は終了を意味するものでなく、短期金利を引き上げる事を意味するものではない、との見解を示すだろう」との見方が伝わり、米株が上昇した事を受け、NZドル/円は反発した。
- ⑤ 20日、NZ第1四半期国内総生産(GDP)は前期比+0.3%、前年比+2.4%とわずかに予想(+0.5%、+2.5%)を下回った。これを受け、NZドル/円は40銭以上下落。更に、米量的緩和の早期縮小観測を受けてNYダウ平均が引けにかけて一時380ドル安となると、NZドル/円は75.06円まで一段安となった。
- ⑥ 28日、アジアや欧州株高を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、NZドル/円は一時77.31円まで上昇。なおNZ5月住宅建設許可件数は前月比+1.3%と予想(-3.9%)を上回り、前回分も上方修正(+18.5%→+21.0%)されたが、市場の反応は限定的であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD / JPY

## 今月のポイント

6月のNZドル/円相場は74.44円～80.75円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.6%の下落(NZドル安・円高)となった。

米国のQE3早期縮小観測からくるドル高・株安の流れを受け、NZドル/米ドルの下げ主導でNZドル/円は大きく下落。ただ、その後は主要国の株価が持ち直した事を背景に底堅く推移した。

7月のNZドル/円相場は先月に続き、QE3規模縮小を巡る思惑が手掛かり材料となろう。市場では7月FOMCでのQE3縮小開始の可能性は低いと見られているが、9月FOMCでの縮小をすることの示唆もありうるので、7月も重要である。5日の米6月雇用統計などが予想より強い結果となり、縮小観測が一段と強まる場面では、ドル買いが強まる可能性がある。その場合、NZドル/米ドル相場でNZドル売り・米ドル買いが強まってNZドル/円相場を下押す材料となり得る。その他、シャドーバンキングの動向を始めとした中国経済の行方や、本邦参議院選挙の結果も手掛かり材料視されよう。

一方、NZでは25日に金融政策発表が予定されている。市場では金利据え置きがコンセンサスとなっており、今回は政策金利よりもその際に発表される声明に注目が集まりそうだ。RBNZの利上げ開始時期について、市場では来年前半での利上げ開始を予想する声が多い。足下では住宅市場が過熱している事から、もし仮に声明にて利上げ開始時期の前倒しを示唆することがあれば、NZドルが買われる展開も予想される。(川畑)

(予想レンジ: 74.00～82.40円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/1(月)	日銀短観	7/15(月)	6月中国鉱工業生産
	6月中国製造業PMI		6月米小売売上高
	6月米ISM製造業景況指数	7/16(火)	第2四半期NZ消費者物価
7/3(水)	6月米ADP全国雇用者数	7/17(水)	バーナンキFRB議長、議会証言(～18日)
	6月米ISM非製造業景況指数	7/21(日)	本邦参議院選挙
7/5(金)	6月米雇用統計	7/24(水)	6月NZ貿易収支
7/9(火)	6月中国消費者物価指数		6月日通関ベース貿易収支
7/10(水)	6月中国貿易収支		7月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
7/10(水)	FOMC議事録(6月18・19日分)	7/25(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
7/11(木)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)	7/30(火)	6月NZ住宅建設許可
7/12(金)	7月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	7/31(水)	米FOMC政策金利発表
7/15(月)	第2四半期中国GDP		
	6月中国小売売上高		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 6月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.98円	10.33円	9.27円	10.02円



①

4日、アジアや欧州株高を背景にランド/円は一時10.33円まで上昇。しかしその後、南ア準備銀行(SARB)が公表した金融政策報告の中で「景気が依然として不安定であり、5月の理事会で示した見通し(2013年は2.4%)を下方修正する可能性がある」との見方を示した事が伝わり、ランド売りが優勢となった。同国のプラチナ鉱山でのスト発生も重石となった。

②

5日、米5月ADP全国雇用者数が13.5万人増と予想を下回った事を受け、ドル/円がストップロス巻き込んで断続的に下落するのにつれてランド/円は大きく下落。安倍首相の成長戦略第3弾の演説に目新しさがなかったため、失望感から日経平均株価が下げ幅を拡大した事も、重石となった。

③

11日、一部で日銀による追加金融緩和が期待されていたが、金融政策の現状維持が発表された事や、その後黒田総裁が会見で(追加金融緩和は)すぐには必要ないと示唆した事を受け、円買い戻しが強まった。NYダウ平均株価の下げ幅拡大も重なり、ランド/円は一時9.30円まで下落。ただその後、全般的なドル売りの流れを受けてドル/ランド相場にてドル売り・ランド買いが進んだ影響を受け、ランド/円は下げ幅を縮小した。

④

13日、上海株が3%超、日経平均株価は800円超、それぞれ下落した事を嫌気して、ランド/円は9.27円の安値を記録。しかしその後、米FRB(連邦準備制度理事会)ウォッチャーの「翌週の連邦公開市場委員会(FOMC)でバーナンキFRB議長は、資産購入プログラムの調整は終了を意味するものでなく、短期金利を引き上げる事を意味するものではない、との見解を示すだろう」との見方が伝わり、米株が上昇し米長期金利が低下した事を受け、ランド/円は引けにかけて9.66円まで上昇した。

⑤

19日、第1四半期南ア経常収支が1909億ランドの赤字と前回(2126億ランドの赤字)より赤字幅が縮小した事が好感され、ランド/円は上昇。その後、米FOMCにて2014年の失業率見通しを下方修正し、GDP見通しを上方修正した事を好感してNYダウ平均株価がプラス圏を回復すると、9.59円まで一段高となった。しかし、バーナンキFRB議長がQE3(量的緩和第3弾)の段階的な縮小について言及すると株価が下落し、為替市場ではドルを買って資源国通貨を売る流れが加速。これを受け、ランド/円は反落した。なお南ア5月消費者物価指数は前年比+5.6%(予想:+5.8%)となるも、市場の反応は限定的であった。

⑥

27日、主要国での株高を背景に、ランド/円は堅調に推移。一時9.88円まで値を上げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

6月のランド/円相場は9.27円～10.33円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.8%の上昇(ランド高・円安)となった。月初は南ア国内のストやSARBによる弱気な経済成長率見通しといった国内要因と、米国のQE3早期縮小観測からくるドル高・株安の流れが重なり、大きく下落。その後は主要国の株価が持ち直した事を背景に反発した。

7月のランド/円相場は先月に続き、QE3規模縮小を巡る思惑が手掛かり材料となろう。市場では7月FOMCでのQE3縮小開始の可能性は低いと見られているが、9月FOMCでの縮小をすることの示唆もありうる。7月も重要である。5日の米6月雇用統計などが予想より強い結果となり、縮小観測が一段と強まる場面では、ドル買いが強まる可能性がある。その場合、ドル/ランド相場でドル買い・ランド売りが強まってランド/円相場を下押す材料となり得る。その他、シャドーバンキングを始めとした中国経済の行方や、本邦参議院選挙の結果も手掛かり材料視されよう。

一方、南ア国内では18日に金融政策発表が予定されている。市場では金利据え置きが予想されており、今回はその際に発表される声明に関心が集まりそうだ。先月25日にマーカスSARB総裁が「CPIの先行きについて、ランドの動きが原因となって、強力な上振れリスクがあるとの見方を強めつつある」「インフレ見通しが悪化しているので利下げはあり得ないが、そうした事態は必ずしも利上げを意味するものではない」等と発言しており、GDP悪化予想との狭間でSARBがどのような見解を示すか注目したい。

先月は陽線引けとなったランド/円であるが、同国の弱い経済やスト発生の恐れ、そして同国の格下げが懸念される中、積極的にランドを買う材料は少なく、引き続き軟調な推移が予想される。仮に主要国の株価が持ち直したとしても、ランド/円の上昇は一時的となるだろう。(川畑)

(予想レンジ:9.40～10.60円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
7/1(月)	日銀短観	7/15(月)	6月米小売売上高
	6月中国製造業PMI	7/17(水)	バーナンキFRB議長、議会証言(～18日)
7/3(水)	6月米ADP全国雇用者数		5月南ア実質小売売上高
	6月米ISM非製造業景況指数	7/18(木)	SARB政策金利発表
7/4(木)	欧州中銀金融政策発表	7/21(日)	本邦参議院選挙
7/5(金)	6月米雇用統計	7/24(水)	6月日通関ベース貿易収支
7/9(火)	6月中国消費者物価指数		7月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
7/10(水)	6月中国貿易収支		6月南ア消費者物価指数
	FOMC議事録(6月18・19日分)	7/25(木)	6月南ア生産者物価指数
7/11(木)	日銀金融政策決定会合(10日～発表)	7/26(金)	第2四半期南ア失業率
7/12(金)	7月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	7/31(水)	6月南ア貿易収支
7/15(月)	第2四半期中国GDP		米FOMC政策金利発表
7/15(月)	6月中国鉱工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。